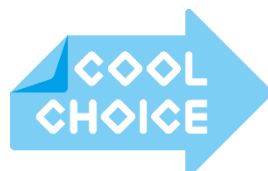


6 気候変動の影響への適応（地球温暖化の適応策）

本市で想定される地球温暖化による影響と、主な適応策は次のとおりです。

分野	影響	主な適応策
農業、森林・林業	高温による農産物の品質の低下等	温暖化に対応した栽培管理への支援
自然生態系	生態系の変化	野生動植物の環境調査と希少種の保護の検討
自然災害・沿岸域	水害、土砂災害、高潮被害の頻発化	災害リスクを考慮したまちづくりの推進
健康	熱中症・ヒートショック増加等	予防・対処法の普及啓発
都市生活	ヒートアイランドによる夏季の気温上昇	緑のカーテンの普及、クールビズ等の普及

7 「COOL CHOICE（クール・チョイス）」の取組について



未来のために、いま選ぼう。

政府は、低炭素型の製品、サービス、ライフスタイルなど、温暖化対策に資するあらゆる賢い選択を促す国民運動「COOL CHOICE（クール・チョイス）」を推進しています。

低炭素型の製品とは、エコカー、省エネ住宅、省エネ家電などを指します。

家電・住宅・自動車という生活に密着している観点で、ライフスタイルを見直し、低炭素型製品を選択することで、快適かつ温暖化対策につながる、一歩先のライフスタイルを賢く選択することが大切です。

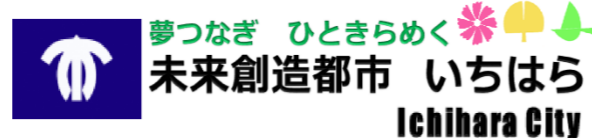
COOL CHOICE（クール・チョイス）では、みんなが一丸となって温暖化防止に資する選択を行ってもらうため、統一ロゴマークを設定し、政府・産業界・労働界・自治体・NPO等が連携して、広く国民に呼びかけています。市原市も賛同登録しています。本計画に示す市民・事業者の様々な緩和策から、身近なところで効果が上がりやすい取組の例です。



図出典：資源エネルギー庁「省エネ性能カタログ2016年夏版」

2018年3月発行 市原市役所 環境部 環境管理課

〒290-8501 国分寺台中央1丁目1番地1
 電話：0436-22-1111【大代表】 Fax：0436-24-1204
 電子メール：kankyokanri@city.ichihara.lg.jp
 計画の詳細はWEBサイト：
https://www.city.ichihara.chiba.jp/kurashi/kankyoryokuka/kankyo/kankyou_keikaku/index.html



COOL CHOICE ICHIHARA CITY

市原市 地球温暖化対策地域推進計画

— いちはら低炭素社会プラン —

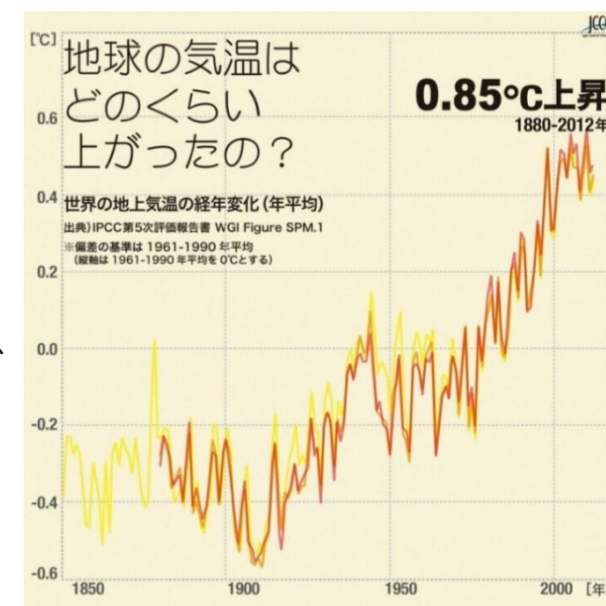
2018年度 ▶ 2030年度



1 地球温暖化による影響

地球温暖化によって、地球規模での海洋の温度の変化や酸性化、海面の上昇、気候変動などが起こり、生態系や気象、土地、水循環等の大きな変化につながると考えられています。

このまま二酸化炭素等の温室効果ガスの増加が続くと、数十年後には地球の環境が危機的な状況に至ると予測されることから、世界的に危機感が高まり、対策が急がれています。



資料：JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター

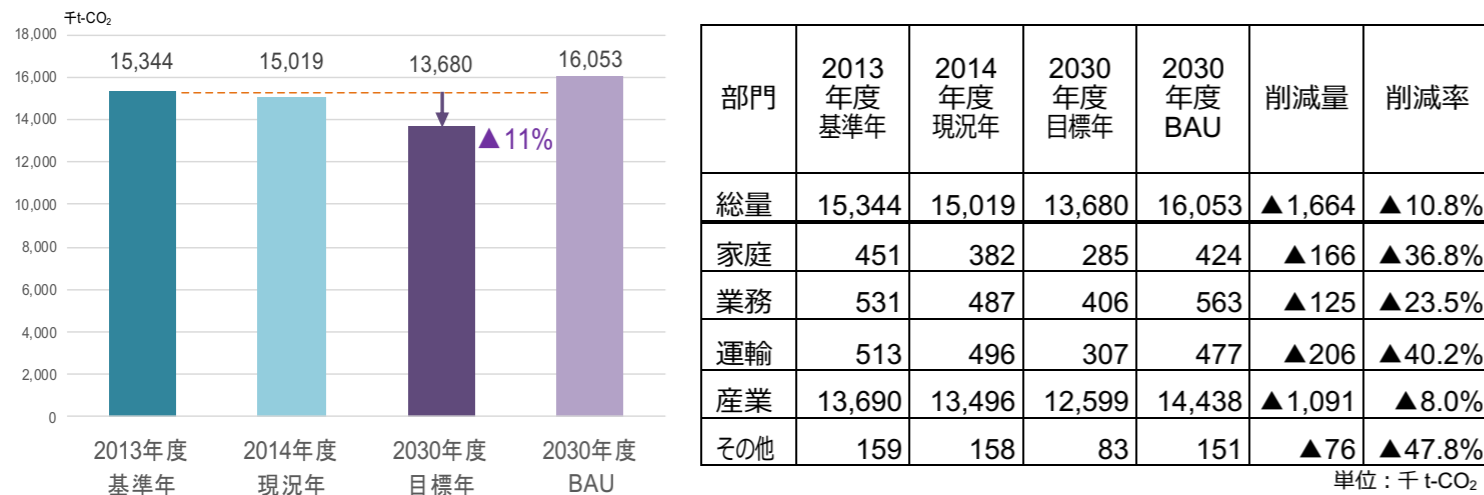
2 市原市の現状

- 人口** 2016年3月に策定された本市の人口ビジョンでは、2030年までに10%程度の人口減が予想されました。そのことを受けて、市原市総合計画では27万人規模を維持としています。
- 産業** 本市における石油化学工業を主とする第二次産業の製造品出荷額等は県下第1位（全県の約35%）で、全国でも上位にあります。
- 地勢** 豊富な森林資源（地目における山林は市域の約23%、現況森林面積は市域の約37%）を有していることから、適切な管理によって二酸化炭素の吸収が期待できます。
- 都市** 土地区画整理事業等による住宅地の整備が進み、JR内房線沿いの連続した市街地と内陸部の大規模な市街地が形成されました。住宅の多くが一戸建てのため、住宅のエネルギー性能向上が重要です。
- 交通** 人の移動や物流の多くの部分を自動車に頼っているため、エコドライブの普及や自動車のエネルギー性能向上が重要です。

3 計画の目指すところ

- 本計画は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第19条第2項に基づき策定する「地方公共団体実行計画（区域施策編）」で、本市の自然的社会的条件に応じて温室効果ガスの排出抑制等を図ります。
- 対象とする温室効果ガスは、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロン類など7種類とします。
- 本計画の基本的な方向性として、「協働による地球温暖化対策の推進」、「環境と経済の連携」、「緩和策と適応策」を推進していきます。
- 市域における温室効果ガスの排出削減について、2013年度を基準年とし、2030年度までに▲1,664千t-CO₂、▲11%の削減を目指します。

市原市の温室効果ガス排出量の削減目標



4 目標達成に向けた取組（地球温暖化の緩和策）

温室効果ガス排出削減を進める緩和策について、4つの視点を定め、主体別部門別に取り組みます。



視点1 再生可能エネルギー等の利用促進

これまでのエネルギーは、二酸化炭素が大量に排出される化石燃料と呼ばれる石油や石炭などを多く使ってきました。そのため、よりクリーンな次世代のエネルギー（スマートエネルギー）への転換が強く求められています。



視点2 ライフスタイル・ビジネススタイルの変革

二酸化炭素の排出を抑えるためには、暮らし方（ライフスタイル）や仕事の仕方（ビジネススタイル）について、エネルギーを上手に効率よく使う省エネ型に変えていくことが求められています。



視点3 コンパクト・プラス・ネットワークの推進

人口減少と高齢化に対応するため、必要な都市機能や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通により生活利便施設等にアクセスできるような、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりが必要です。



視点4 森林・みどりの保全及び緑化の推進

森林による二酸化炭素の吸収を保つためには、造林地の手入れを行い、伐採と植樹により新たな樹木を育てていくことが必要と考えられます。

5 緩和策の主体別取組

主体別の主な緩和策は次のとおりです。

市民の取組例

- 住宅に太陽光発電や太陽熱利用、蓄電池、家庭用燃料電池等を導入します。
- 家電について、冷蔵庫を正しく設置する、つけっぱなしにしないなど、無駄のない適切な使い方を実践し、エネルギー効率の高い製品を使います。
- 風呂やキッチン等の給湯について、出しっぱなしにせず、風呂に続けて入り追い焚きを控えるなど、無駄のない適切な使い方を実践し、エネルギー効率の高い機器を使います。
- 照明について、人のいない時は消灯するなど、無駄のない適切な使い方を実践し、LEDを使います。
- 今の住宅の断熱性能を上げるため、改修（エコリフォーム）を行います。
- 新築する住宅を、省エネルギー基準適合等のエネルギー性能の高いものとします。
- ちょっとそこまでの外出にはマイカーを使わず、徒歩や自転車にします。
- エコドライブを実践します。
- 余分な買い物をしない、物の少ないシンプルな暮らし、物を大切に長く使うなどで、ごみになるものを減らします。
- マイバッグ・マイボトルや詰め替え用品などで、プラスチック類の廃棄を減らします。
- 森林保全に協力、参加します。



千葉県「エコドライブの推進～Do! エコドライブ～」より

事業者の取組例

- 再生可能エネルギーで作られる電力の購入や普及に取り組みます。
- グリーン購入・グリーン調達に取り組みます。
- OA機器や空調機器、照明、家電について、不要な時はスイッチを切る、サーキュレーターで空気の対流を促すなど、無駄のない適切な使い方を実践し、エネルギー効率の高い製品の利用や普及に取り組みます。
- 建物全体のエネルギー利用について、省エネ診断、BEMS（ビルエネルギー管理システム）の利用や普及に取り組みます。
- 通勤や営業活動、輸送等でエコドライブを実践します。
- 森林整備、森林保全に取り組みます。



コスモの森における里山保全と市内小学校への環境教育

市の取組例

- 国民運動「COOL CHOICE（クール・チョイス）」を推進します。
- 公共施設のLED化や省エネ機器の導入に取り組みます。
- 都市機能の集中とネットワーク化を図ります。
- 公共施設に電動車両への給電設備を設置します。
- ごみ焼却施設における発電設備を効率よく運用します。
- ごみの排出抑制と分別の徹底を市民・事業者に働きかけます。
- 林業振興、森林保全に取り組みます。



市原市役所第1庁舎（新庁舎）の太陽光発電設備

オールいちはらで取り組もう！



市原市マスコットキャラクター「オッサくん」